

## 閉会のあいさつ

上越市創造行政研究所長  
横山 正

創造行政研究所の横山でございます。今日は研究所が初めて試みたセミナーでございます。大変長時間でございましたけれども、皆様お忙しいところを沢山お出でいただき熱心にご聴講下さいまして本当にありがとうございました。

今日はITというテーマを取り上げましたが、石井先生には政府のIT戦略会議にも参加されて大変お忙しい中をわざわざ時間をお割き下さいまして、日本と世界の最先端の状況についてお話いただきました。しかも非常に分かりやすく、そしてまた日本の非常に得意とするところ、また弱いところをはっきりと指摘してくださいまして、私どもも大いに認識を新たにさせていただきました。

また大川様からは、世界の電子政府あるいは電子市役所の現状をつぶさにご紹介いただき、また電子市役所が現実にどんなふうな形で運営されるかについて、これまた分かりやすくお話いただいて、大変ありがたく思っております。あらためてお二人の講師の方々に厚く御礼申し上げたいと思います。

さきほど市長がお話すべきことで、時間の関係で叶わなかったことがあり、市長に代ってお伝え

申し上げます。

石井先生から、国のIT戦略会議のお話がありました。総理大臣をトップにして、石井先生をはじめとする方々がこのIT戦略会議を構成されているわけです。これを受けまして、上越市でも、地域のIT化の促進と電子自治体の推進について、まさに国の考えられているものを受け継ぐようなかたちで、上越市IT戦略会議を設けることになりました。この11月から発足することになっております。国と同じように市長をトップとして、市の各部局や市の各方面でのいろいろな研究、あるいは活動を統合するかたちで、IT戦略会議を発足させるわけです。詳しくは市の広報やホームページなどに載ると思いますが、とりあえずそういう動きがあることをお伝えしておきます。この研究所ももちろんこれにご協力して、上越市の行政のさらなる発展をお手伝いしていきたいと思っております。

ITを第1回目のセミナーの題目として取り上げましたのは、こういうことも一つの背景にあったのですが、ただITというのがいま非常に話題になっているだけでテーマとして選んだわけではなく、やはりITがこれから私たちの文化や生活の各方面にもっと深いかたちで関わってくる可能性があるということを考えたからです。ITはいま、どちらかというと経済の問題や能率・利便性といったことを中心に論じられており、私どもの研究所として発表した第3部でも分かりやすさや親しみやすさといったことから主としてそういったことを取り上げましたけれども、実際にはもっとさまざまな面を持っているわけです。たとえばさきほど石井先生も紹介してくださいましたけれども、上越市の小・中・高校の先生方が、大変熱心に先進的な教育ネットワークをつくる試みをやっていたらっしゃいます。これは日本のなかでも大変進んでいる方だと言って石井先生も大変感心していらっしゃいましたけれども、そういった方面でもITは非常に大きな意味を持っていますし、またこれも石井先生のお話にありましたけれども、科学のすべての分野がいまITを抜きにしては考えられないほどです。さきほ

どお話があったヒトゲノムの解明にしても、まさにITの技術があったからできたわけで、けっして経済のみにとどまらず、ITの影響はもうほとんど私たちの生活の全分野に及んでいると思います。

ただIT革命によって大量の情報を瞬時に運ぶことができ、またそれを双方向でやりとりができ、しかも非常に速く処理していくことができるようになりましたが、実はこれにはものすごい破壊力が伴っています。東西冷戦の壁がなくなったというのも、ある意味ではこのメディア技術の大革新の力が働いています。一国のみの閉じた経済、閉じた体制を許さない力がそうした壁を突き崩していくのです。ノーベル賞は、生物学、物理学、化学といった古い分類をいまだに用いていますけれども、私が40年位前に大学に入った時にすでに学際と言ってそれぞれの学問の境目のところが先進的なテーマになっていたのですが、今ではもうそれがあたりまえのことになってしまっています。こういうのがまさにITが影響を及ぼしているところであって、文化や生活のあらゆる局面にあって、どんどんそうした境目が崩されていくように思います。科学と芸術といった、まったくいままでは違った分野であったものが、いまではほとんど同じ線で繋がって来つつありますし、こうした意味でITというのは私たちの生活や文化にもっと根本的な変革をもたらして来るように思います。

さきほど石井先生が3つの革命の話をされて、3つ目の革命としてIT革命を挙げられましたけれども、かつての産業革命がそこからいろいろ新しい時代の文化を生んだように、この革命も何

らかのかたちでそうしたものを生みだしていきつつあるように思います。またその一方で、かつての産業革命は都市問題や労働問題などいろいろな社会問題を生みました。この新しい技術もまたそういった問題を当然引き起こすものであらうと思います。それに対して、人間が知恵を持ち、けっして受身でなく能動的に対処していき、崩された境界に対して、また新しい領域、あるいは新しい繋がりをどんなふうに創り出していくかが課題になろうかと思えます。それこそ国家という概念にしても、4、50年前とはずいぶん違ってきていると思いますし、これからもどんどん変わっていくと思います。そうした状況にあって、けっして受身でなく、情報の洪水に流されずに新しいものを建設していく、そういう世代を生みだしていく責任が私たちにはあると思いますし、またそういう考えから今後、このITの問題について、再度、セミナーやシンポジウムを通じて思考を深めていきたいと思っております。

今回、初めての試みとして研究の一部を発表させていただきましたけれども、これはごく一端でございまして、研究所では市の政策にかかわる様々な問題を研究しております。またそれをいろいろなかたちで発表させていただくようにしたいと思っております。また来年度については、市民の方がたに研究員としてご一緒に身近なテーマについて研究していただく市民研究員の制度も考えております。そうしたことを加え、これからも開かれた研究所として上越市のために役立つ仕事をしていきたいと思っておりますので、よろしくご支援いただきたく存じます。

本当に今日はありがとうございました。